

第 24 話：最近におけるサバ缶の販売動向

日本水産缶詰輸出水産業組合・日本水産缶詰工業協同組合
専務理事 松浦 勉

「サバ缶詰を食べよう」シリーズでは、第 1 話が「テレビ番組によりサバ缶詰人気上昇」、第 2 話が「消費拡大に伴うサバ缶詰の新商品開発」、第 3 話が「中央水産研究所のサバ缶マニア」、第 4 話が「サバ缶詰を使ったご当地料理」、第 5 話が「レシピ本にみるサバ缶詰料理」、第 6 話が「サバ缶レシピ本の出版動向」、第 7 話が「レシピ本とテレビ番組がきっかけを作ったサバ缶ブーム」、第 8 話が「統計資料からサバ缶ブームをみる」、第 9 話が「サバ缶ブーム下における青物 3 魚種缶詰の販売金額の動向」、第 10 話が「サバ缶の調理方法別消費動向」、第 11 話が「サバ缶ブーム期におけるサバ缶の輸入を含む供給動向」、第 12 話が「マグロ缶ブームとサバ缶ブームの比較」、第 13 話が「小売店舗におけるサバ缶の販売状況」、第 14 話が「ポルトガルの水産缶詰事情」、第 15 話が「八戸市で開催された鯖サミット」、第 16 話が「水産高校とサバ缶詰」、第 17 話が「戦後における水産缶詰の生産量と輸出量の概要」、第 18 話が「戦後の我が国における主要水産缶詰の輸出量動向」、第 19 話が「戦後の日本人における水産缶詰の嗜好の変化」、第 20 話が「サバ缶の調理形態別国内消費量の動向」、第 21 話が「イワシ缶の調理形態別国内消費量の動向」、第 22 話が「サンマ缶の調理形態別国内消費量の動向」、第 23 話が「青物缶詰における魚種間の連携」についてお話させていただきました。第 24 話からは 3 回にわたり、サバ、イワシ、サンマの缶詰の最近の販売動向についてお話させていただきます。第 24 話は、「最近におけるサバ缶の販売動向」についてです。

株式会社「KSP-SP」の POS データには、月報（販売金額が上位 50 品目）と年報（販売金額が上位 100 品目）の 2 つがあり、また、年報には地区別ランキングも掲載されています。まず月報を用いて、表 1 に「水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の上位 50 品目におけるサバ缶順位の推移」を示しました。ここでは、年間の国内消費量が多い 12 月のデータを用いました。

1 位の品目は、2010 年から 2016 年まではサンマ缶でしたが、2017 年以降サバ缶になりました。上位 50 品目に占めるサバ缶の合計品目数は、2010 年にはわずか 9 品目でしたが、2014 年が 24 品目、2018 年が 32 品目に増加しました。そして、2019 年には一旦 26 品目に減少しましたが、2020 年（6 月）には、再び 32 品目になりました。

サバ缶の調理形態は、2010 年から 2017 年までは味噌煮が一番多かったのですが、サバ缶ブームにより 2018 年と 2019 年には水煮が一番となり、2020 年（6 月）には味噌煮が再び一番になりました。

表1. 水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の上位50品目におけるサバ缶順位の推移

販売金額の多い 品目の順位	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
	12月	12月	12月	6月								
1								味噌煮	水煮	水煮	味噌煮	
2								水煮	水煮		水煮	
3		味噌煮	味噌煮	味噌煮		味噌煮	味噌煮		味噌煮	味噌煮	水煮	
4	味噌煮			水煮				味噌煮		水煮		
5		水煮			味噌煮			水煮	味噌煮	味噌煮	味噌煮	
6						水煮		味噌煮		水煮	味噌煮	
7				水煮	水煮	水煮		水煮	水煮		水煮	
8		水煮			水煮	水煮	水煮	水煮		味噌煮	味噌煮	
9	水煮		水煮				水煮		味噌煮	味噌煮	水煮	
10	水煮		水煮			味噌煮		味噌煮	水煮	水煮	水煮	
11						味噌煮	味噌煮		味噌煮	水煮		
12									水煮		水煮	
13				味噌煮			水煮		水煮	水煮	水煮	
14			味噌煮			味噌煮		味噌煮	水煮			
15	味噌煮					水煮		水煮		水煮		
16		味噌煮										
17				水煮						味付	味噌煮	
18				水煮	水煮			水煮	味付		水煮	
19					水煮	水煮	味噌煮	水煮	水煮	水煮	水煮	
20			味付	味付				味噌煮	水煮	水煮	味噌煮	
21		味付		味噌煮	味噌煮		水煮		水煮	水煮	水煮	
22	味付				味噌煮	味噌煮		煮付	味噌煮		水煮	
23			味噌煮		水煮	水煮			味噌煮		味噌煮	
24					味付			味噌煮	水煮	味噌煮	味付	
25									水煮	水煮	味噌煮	
26				水煮		味付		水煮	水煮		水煮	
27										味噌煮		
28			水煮	水煮	味噌煮	味噌煮	水煮	味噌煮		味噌煮	味付	
29				水煮	味噌煮				味噌煮			
30		味噌煮		味噌煮	味噌煮			味噌煮	味噌煮	水煮		
31					水煮			味付	水煮		水煮	
32					味噌煮			水煮			味噌煮	
33	味噌煮	味噌煮	味噌煮	味噌煮	水煮		味噌煮		水煮			
34				水煮			味噌煮				水煮	
35						水煮	味付	オリーブ オイル漬	水煮			
36					水煮			味付	水煮	味付		
37		味噌煮			味噌煮		味付	水煮	味噌煮			
38					味噌煮	味付			味付		味噌煮	
39						味噌煮						
40		味噌煮		味噌煮	水煮		味噌煮	水煮		味付	水煮	
41					水煮			味噌煮		味噌煮	味噌煮	
42		水煮		水煮				味噌煮				
43		水煮	味噌煮	味噌煮	味付		味付					
44	水煮		味噌煮	味噌煮	味噌煮		水煮	味付	水煮	水煮	味付	
45	味噌煮		水煮					水煮				
46									味噌煮	味噌煮		
47			水煮			味噌煮	味噌煮		味付		味噌煮	
48				味噌煮	味噌煮			水煮	味噌煮		梅じそ	
49					水煮						水煮	
50	味噌煮					味噌煮				水煮		
サバ缶の合計品目 数	9	11	12	18	24	18	17	29	32	26	32	
調理形 態別 内訳	水煮	3	4	5	9	11	7	6	13	18	14	16
	味噌煮	5	6	6	8	11	9	8	11	11	9	12
	味付	1	1	1	1	2	2	3	4	3	3	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

出典：全国販売POSデータ(KSP-POS、缶詰時報)

また、調理形態別内訳をみると、2010年が味噌煮5、水煮3、味付け1の計9品目であり、その後、調理形態別品目数はいずれも増加しました。特に増加が著しかったのが水煮であり、2018年には18品目、2010年の6倍に増加しました。しかし、2020年（6月）には味噌煮が12品目で最も多くなりました。

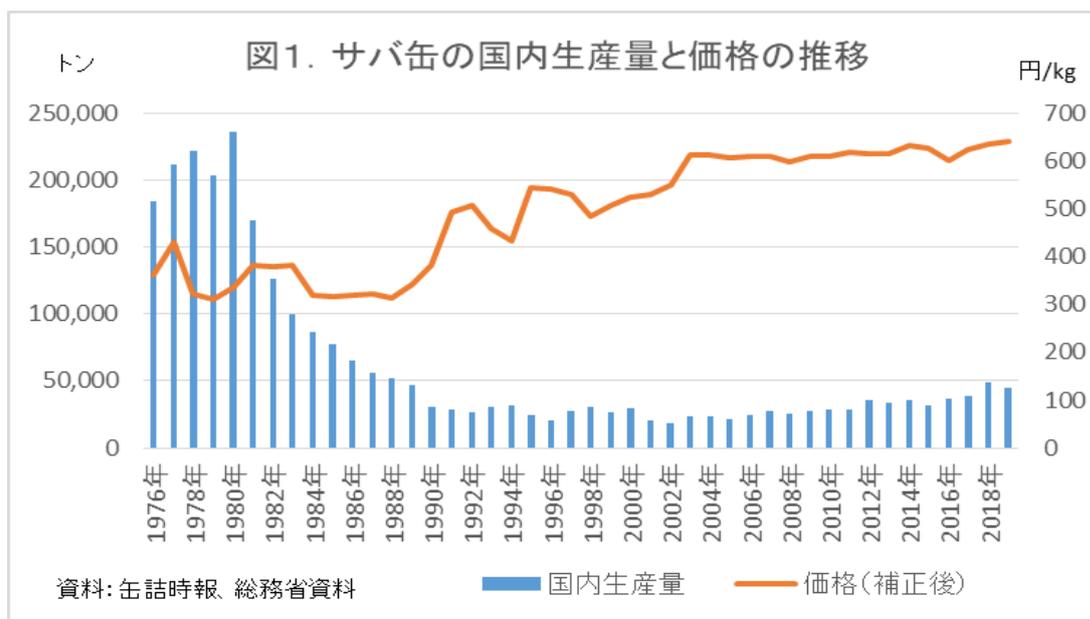


図1に、「サバ缶の国内生産量と価格の推移」を示しました。価格（1kgあたり）は、消費者物価指数（2015年が基準年）により補正しました。サバ缶の価格は、1970年代半ばから1980年代には300円でしたが、1990年代が500円、2003年から600円に増加しました。サバ缶の国内生産量は、2017年の3万トンから2018年以降4万トンに増加したにもかかわらず、サバ缶の価格は、2017年が624円、2018年が636円、2019年が642円と下落することなく推移しました。

次に、年報を用いて、表2に「水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の販売金額上位100品目におけるサバ缶の調理形態別年間地区別ランキング（2019年）」を示しました。年報の地区別ランキングは、全国を北海道、東北、北関東、首都圏、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州の10地区に区分します。なお、ランキングの対象となる品目は、全国10地区のうち8地区以上で販売される品目を対象とし、販売される地区数が7地区以下の品目は除きました。

2019年の年報では、水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の販売金額上位100品目の中にサバ缶が42品目を占めました。その内訳をみると、水煮が18品目（うち、50位以内が13品目）と一番多く、次いで、味噌煮が13品目（うち、50位以内が11品目）、味付けが11品目（うち、50位以内が3品目）となりました。

表2. 水産缶詰（マグロ・カツオ以外）の販売金額上位100品目における
サバ缶の調理形態別年間地区別ランキング（2019年）

調理形態	順位	地区別ランキング									
		北海道	東北	北関東	首都圏	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
水煮	1	8	1	4	1	1	5	10	7	6	9
	2	1	2	8	3	9	6	7	10	4	5
	4	3	2	3	7	3	1	6	9	8	10
	9	5	8	10	9	4	2	7	1	3	6
	10	7	5	8	1	2	3	5	9	10	4
	11	2	3	1	3	5	9	10	6	8	7
	13	7	5	4	10	7	2	6	3	1	9
	15	9	7	3	1	4	2	5	9	6	8
	17	10	3	2	4	4	7	1	8	9	6
	18	10	2	1	3	7	8	9	6	4	5
	19	9	4	9	8	2	5	1	2	7	6
	29	8	9	4	1	3	10	5	6	2	7
	41	10	3	2	9	7	8	4	6	1	5
	52	3	1	2	4	8	9	9	7	4	6
	55	4	2	10	6	1	3	9	8	7	5
	60	8	3	1	2	7	10	6	5	9	4
	61	1	3	5	4	7	2	10	9	6	8
63	2	8	7	1	9	5	6	3	10	4	
単純平均順位	7	1	3	2	4	5	10	8	6	8	
味噌煮	3	1	4	9	4	10	8	7	6	3	2
	6	9	1	2	2	7	4	10	7	5	5
	7	3	4	5	9	1	2	8	7	6	10
	8	5	8	9	1	2	4	5	7	10	3
	20	6	8	9	10	5	3	7	1	2	4
	22	9	5	9	8	4	6	1	1	7	3
	28	8	10	3	9	5	2	6	4	1	7
	33	10	3	2	9	5	7	4	8	6	1
	44	10	3	1	2	4	8	9	6	7	5
	46	8	9	5	1	3	10	4	6	2	7
	48	7	6	5	9	1	4	3	8	10	1
	95	1	2	8	9	6	3	10	7	4	5
97	7	3	2	1	8	10	6	4	9	5	
単純平均順位	10	3	4	8	2	5	9	6	6	1	
味付け	21	2	8	10	9	7	6	3	5	4	1
	34	1	10	8	9	1	1	6	5	4	7
	35	9	6	9	8	3	7	1	2	5	3
	38	1	7	2	8	3	9	10	4	5	6
	51	7	10	9	8	5	4	6	1	2	3
	53	8	10	7	9	5	2	4	3	1	6
	57	4	1	3	5	8	9	10	7	2	6
	79	8	9	5	10	6	7	4	2	1	3
	81	8	7	9	2	3	10	4	5	1	6
	84	1	7	5	10	6	8	9	2	3	4
89	7	9	8	6	4	1	2	3	10	5	
単純平均順位	5	9	8	9	4	7	6	2	1	3	

資料：日刊水産経済新聞（2020年2月4日）（出典：KSP-POS）

調理形態別の地区別ランキング（単純平均順位）をみると、水煮は東北が1位、首都圏が2位、北関東が3位、北陸が4位、東海が5位であり、本州の東側半分の地区で消費が多いことがわかりました。また、味噌煮は九州が1位、北陸が2位、東北が3位、北関東が4位、東海が5位であり、九州で消費が多い。味付けは四国が1位、中国が2位、九州が3位、北陸が4位、北海道が5位であり、西日本で消費が多いこともわかりました。

表3. 神奈川県横浜市戸塚区東戸塚駅周辺における小売店舗のサバ缶販売状況

小売店舗のタイプ	小売店舗の名称	サバ缶の調理形態別品目数						うち、国内産の品目数	うち、輸入した品目数	うち、大量販売の有無
		水煮	味噌煮	味付け	油漬け	その他	計			
デパート	ザ・ガーデンズ自由が丘	11	8	1	2	2	24	23	油漬け1(タイ)	無
スーパーマーケット	イオン	8	7	6		3	24	17	7:水煮1(タイ)、味噌煮2(タイ)、味付け2(タイ)、その他2(タイ)	有
	コープ	8	5	1	2		16	15	油漬け1(テンマーク)	無
	東急ストア	11	8	3	2	5	29	25	4:水煮1(タイ)、味噌煮1(タイ)、煮付け2(タイ)	無
ディスカウントストア	オーケー	6	6	4		1	17	14	3:水煮2(タイ)、味噌煮1(タイ)	有
	オリンピック	8	6	3	3	7	27	27		無
コンビニエンスストア	セブンイレブン	2	2	1	1		6	6		無
	ファミリーマート	2	2		1		5	5		無
	ローソン	2	2	1			5	2	3:水煮1(タイ)、味噌煮1(タイ)、味付け1(タイ)	無
百円ショップ	キャンドゥー	3	3	1			7		7:水煮3(タイ1、フィリピン1、中国1)、味噌煮3(タイ1、フィリピン1、中国1)、味付け1(中国)	無
	シルク	0				2	2		その他2(タイ)	無
	ダイソー	0								無
合計(述べ品目数)		61	49	21	11	20	162	134	28	

(注1)2020年8月30日に販売状況調査を実施

表3に、「神奈川県横浜市戸塚区東戸塚駅周辺における小売店舗のサバ缶販売状況」を示しました。東戸塚駅周辺の小売店舗（12店舗）が販売している調理形態別サバ缶の合計（延べ品目数）をみると、水煮（61）、味噌煮（49）、味付け（21）、その他（20）、油漬け（11）の順に多くなっています。「その他」では、トマト漬け、梅じそ、柚コショウ、レモンバジル味、アクアパッツァ風、パプリカチリ味、ブラックペッパーが多くを占めました。

サバ缶の品目数（計）は東急ストア（29）、オリンピック（27）、ザ・ガーデンズ自由が丘（24）、イオン（24）、また、輸入品目数はイオン（7）、キャンドゥー（7）、東急ストア（4）の順でした。

水産缶詰の配置状況を小売店舗のタイプ別にみると、デパートやスーパーマーケットでは1品目の面積が狭くぎっしりと置かれ、ディスカウントストアでは1つの品目が広い面積を占有し、コンビニエンスストアや百円ショップでは缶詰がまばらに置かれているところが多いようです。

次回は、「最近におけるイワシ缶の販売動向」についてご紹介します。引き続き、よろしくお願ひします。